

c-5

山形県醤油味噌工業協同組合

統一ブランド商品の開発で組合をPR、デジタル化も推進

住 所	〒990-0832 山形県山形市城西町1-6-15		
U R L	https://yamagata-shoyumiso.jp/		
設 立	昭和22年7月	主 な 業 種	醤油味噌製造業・販売業
組 合 員 数	27人	出 資 金	30,862千円

■背景・目的

味噌・醤油の需要が年々低下するなか低価格の県外商品も増加していたため、価格以外で商品の差別化を図ることが喫緊の課題であった。県内の醸造所の紹介や地元消費の増加を図ることを目的に、山形初市にてPRを開始し統一ブランド商品を開発・販売している。また県内に分散している組合員の移動の手間を無くし、コロナ禍への対応もあってオンライン会議で定例会議や理事会を実施することとなった。

■取組みの手法と内容

共同販売事業では、山形市内で毎年開催される初市にて組合及び組合員企業のPRを実施。その後16蔵の商品を合わせたカップ入りの「山形あわせ味噌」を販売し、醤油については「紫魂 やまがた蔵自慢」というブランドを開発、同一容器・ラベルで統一して販売している。セット販売では味比べ出来るのが特徴で、道の駅・各社店舗・山形市ふるさと納税返礼品として販売されている。醤油の日である10月1日には新聞広告を掲載している。

デジタル化事業については山形県中小企業パワーアップ補助金(オンライン化促進支援事業)を活用、組合事務所に大型ディスプレイを設置しオンライン会議が可能な環境を整え、事務局が中心となって組合員に情報提供や操作のアドバイスを実施した。この環境で各委員会・理事会を月2～3回オンラインで開催することにより遠隔地の組合員も移動の必要がなくなり、会議費用・交通費・印刷費などの負担も削減された。会議はZoomを使用し組合がホストとなり運営、会議資料は事前にPDF形式にしてメールで配付している。インターネット環境がない組合員は、スマートフォンで参加している。

■成果とその要因

統一ブランド商品開発により、組合員と商品の知名度が向上。オンライン会議では時間調整が容易になり、遠隔地からの移動も不要になったためコスト削減にもつながった。

研究熱心な組合員が多く、技術・ノウハウを活かした統一ブランド商品が消費者の支持を得られたこと、また組合事務局がデジタル化のサポートや消費者からの問い合わせへの対応を行うなど、多面的な活動で支援していることも大きい。

特徴ある組合事例



組合統一ブランドの醤油「紫魂 やまがた蔵自慢」は味比べが出来るようセット販売も行う



通年販売を開始し、より買い求めやすくなった組合統一ブランドの味噌「山形あわせ」



組合員企業の特長を活かした統一商品を開発・販売することで山形味噌・醤油のブランド価値を向上させ、オンライン会議等による組合員のデジタル化も推進している。